

# 平成 28 年度 第 1 回幼経懇セミナーのご報告

セミナー委員長 角谷正雄

1、 セミナーテーマ 「幼児教育の質の向上について海外の研究者から学ぶ」

2、 場 所 東京ガーデンパレス 東京都文京区湯島 1-7-5

3、 日 時 7月 18日 (月) 海の日

講演 1 : 17 時 15 分から 18 時

講演 2 : 18 時 15 分から 19 時 45 分

## 4、 目 的

今回のセミナーは平成 30 年度より施行される新しい幼稚園教育要領に取り入れられる「主体的・対話的で深い学びの充実：アクティブ・ラーニング」と「保育の質とは何か」を学ぶことを目的として開催しました。

内容は、ラーニング・ストーリーを実践して保育の質の向上に役立てているニュージーランドのワイカト大学ウェンデイ・リー教授より実践例を、鎌倉女子短期大学の佐藤康富先生よりラーニング・ストーリーの基本的な考え方をお話し頂きました。

## 5、 セミナー内容

講演 1 : 「ラーニング・ストーリーとは」

講師：鎌倉女子短期大学 初等教育学科 教授 佐藤康富先生

ニュージーランドの保育の歴史から、保育の質を測る物差し、「 ECERS(保育環境評価スケール) 保育環境が物理的、空間的面からみていく、 SSTEW(保育プロセスの質評価スケール) 保育者のかかわりを観る視点、 Learning Storis(子どもの学び評価スケール) 子どもの姿をエンパワーメントする視点」があることを示して頂いた。

続いてニュージーランドの幼児教育のナショナルカリキュラム「テ・ファリキ」について、1996 年に始まった幼保統一のカリキュラムであり、4つの原理「エンパワーメント・全人格的発達・家庭と社会・関係性」と5つの要素「心身の健康・貢献・体験による探求・所属感・対話と発信力」からできていることを示して頂いた。

ラーニング・ストーリーとは、子どもの一人一人の成長の記録が物語であり、学びの軌跡である。そして、学びの評価でもある。基準は「興味を持っている・夢中になっている・自分を表現している・他者の役立つ貢献する」そして積極的に学びへ向かう姿勢＝学びの構えがあるかである。

そして、学び志向の子どもを育てる、生きる、学びの意欲を育むには、結果志向から学び志向への変革と社会情動的スキルが重要となる。社会情動的スキルは、忍耐力・自己抑制・目標への情熱(目標の達成)、社会性・敬意・思いやり(他者との協働)、自尊心・楽観性・自信(情動の制御)と考える。

学びの構え、「受け身ではなく、進んでやろうとする意欲へ目を向ける。環境の中で育む心の傾向」である。

子どもの理解を深めるために保育を構想する保育記録は、「学びをとらえる、記録を作る、話し合う、援助の判断」の4つのレンズが必要である。

講演 2 : 「ラーニング・ストーリーの実践例を学ぶ」

講師：ワイカト大学 教授 ウェンデイ・リー先生

お話は、リー先生の生い立ちから始まり人生全般を通してどのように育ったか？どのような先生から影響を受けたか？そして今どのようなことを考えているか？お話しされた後、ラーニング・ストーリーズについて講演頂いた。

幼少期はサモア・フィジーで生活され、8歳の時に父が亡くなりニュージーランドに戻ら

れた。長女であったため 10 歳からご家族の夕食は作っていたそうです。

祖母の洋服づくりのこと、母のこと、子どものことなど家族についてもどのような影響を受けるか自身の体験、特に長男のコスチューム作りが祖母の影響であったこと、家族（家庭）としては「目標を持つこと、意欲があること、まねること、道具を使うこと」「自分がやってほしくないことは人にはするな」「やさしさ・公平さ」を大切にしていることを語ってくれた。

人生で影響を受けた最初の先生は、ビビアン・ガスイン先生で「自信をつけていただいた、大事にしてくれた、深い愛を注いでくれた」「何をしてくれたかは忘れるが、どのような感情を与えたかは忘れない」ということを教えてくれ、40 年後に訪ねて行ったら「自分の記憶より当時のことを覚えていてくれた」ことを語ってくれた。

次は、ラーニング・ストーリーを開発したマーガレット・カー先生であった。カー先生とは恩師であり・共同研究者であり、12 人の幼児教育者を育てているメンバーの中心にいる先生として大きな影響を受けている。

ラーニング・ストーリー（個々の成長の物語）とは、「幼児が 1 日に気づくことは 900 回以上ある。学びは複雑である。どうしたら効果的な学びとなるか考え、このうちのいくつかを文章化し、個々の子どもの可能性を考え、子ども・家族・教師にとって意味のある物語を書くこと」である。

ここで大切な事は、「分析する・何を学んだか・何を教えたか・支えていくためには何が必要か」を気づき・写真・文章で伝えていくこと。

ラーニング・ストーリーズは、一人一人の人生、家族・子ども・教師の声・作品で、子どもと親で読む、教師が読む、家族に喜びをもたらすものである。

ニュージーランドの幼児教育カリキュラムは、テ・ファリキというもので、テ・ファリキができる前は、観察中心、チェックリストでできることできないことの評価であった。

テ・ファリキ完成後は、効果的な学びになるかが中心となり、子どもの学びにつながっているか、学びが広がっているか、何の学びが起きているか、感情を起しているか、誰に向けて書いているか、見極める力が教師にあるかが問われるものとなっている。

テ・ファリキの理念としては、学ぶ姿勢が大切で子どもに自信を持たせる、深く押し進める⇒強くなる、次にできることにつなげる。そして物語を書くことである。

それは、①「子ども全体でみる、尊敬・家族・地域も含めて」、②「マジック、驚く（感動）する瞬間を見つける」③「教えてばかりでは書けない」物語である。

「人を育てることは物語を作ること」と「そしてそれを記録しておくことで子ども・家族・教師それぞれが育っていく」ことを教えられたと思う。

その他、お二人の先生から学んだことはたくさんあったと思うが、私の英語力と文章力の問題があり十分に伝わり切れないことがあり誠に申し訳ございません。

新潟県私幼では 10 月 19 日から 23 日までニュージーランドへ研修旅行に出かけます。ワイカト大学へ行きウェンディ・リー先生から直接お話を聞く機会や幼児教育施設の視察も設けております。希望がありましたら角谷まで連絡ください。☎ 090-9366-3685

海の日にもかかわらずご参加くださいました皆さまありがとうございました。

